



みつけた!



豊川市の復興シンボル「ケヤキ並木」

総合体育館と市野球場の間にあるケヤキ並木は、昭和14（1939）年に豊川海軍工廠の開庁記念として、正門前の通りに植樹されたのが始まりです。一帯は、昭和20（1945）年8月7日の空襲で大きな被害を受けた場所ですが、空襲に耐え、樹勢盛んな姿を見せるケヤキは、戦後における豊川市の復興のシンボルともいえます。また、付近には、豊川海軍工廠の被爆で亡くなった人々の霊を慰めるため、昭和40（1965）年に「平和の像」が建てられました。

さらにこの並木は、文化の薫り高いまちづくりを進めるため、平成5（1993）年、市制施行50周年記念に「豊川彫刻の道 ふれあいプロムナード」として整備されました。ふるさとや人、風とのふれあいをテーマに、豊川市出身の作家らによる9体の彫刻が設置されています。

ケヤキ並木は、おいでん祭をはじめさまざまなイベントの会場としても利用されます。近くを訪れた際には、散策を楽しみながら、戦後からの本市の復興について思いをはせるとともに、文化の薫りを感じてみませんか。

